

新教育長の教育に
対する思いを伺う



たかの てつろう
高野 哲郎
議員

一括質問



動画でチェック

◆学校教育について

Q 少子化問題、教育の多様化等々教育の抱える課題は山積しているが、山本新教育長の学校教育に対する熱い思いを伺う。

A 教育で大切なことは人づくりであり、これからの複雑な時代を生きていく子供たちに生きる力を育むことだと考える。学校、家庭、地域が連携し、一人一人の自己肯定感を高め、持続可能な社会の創り手となる人間教育、人材教育に取り組んでいく。

Q 速度を増しながら進む少子化の中、学校単位での部活動の運営が厳しくなっている。部活動の地域移行についてどのように取り組んでいくのか伺う。

A スポーツ庁からのガイドラインの趣旨にのっとり、まちづくり市民財団と連携し、休日の地域移行に向けて進めている。今年度は関係組織が毎月協議会を開催し、関係機関からの意見を聴取しながら、将来にわたる持続可能な体制整備に取り組んでいる。

Q 先日、全国中学校体育大会「全中」の縮小に伴い、9競技の取り止めが発表された。その中に小松市のお家芸ハンドボールが含まれている。大変残念だがその対応は。

A このピンチをチャンスに捉え、地域や地元企業との連携を生かし、例えばユースクラブチームの創設など新たな競技力向上の仕組みづくりや「〇〇カップ」のような大会を開催して小松をハンドボールの聖地とするなど、新たな方向性を考えていく。

◆小松市公会堂条例廃止に関連して

Q 今定例会で公会堂条例廃止の議案が上程されている。公会堂取壊しの折には、一階入口及び市庁舎側の宮本三郎先生の壁画「小松の産業」は保存・活用すべきと考えるがどう取り扱うのか。

A 市の大切な財産である壁画などの取り扱いについては、今後、丁寧に検討を重ねていきたい。



「小松の産業」(東側)



「小松の産業」(西側)

小松南部地区のスポーツ
拠点の充実について



おかやま あきひろ
岡山 晃宏
議員

一括質問



動画でチェック

◆こまつドームのアリーナの今後の活用策について

Q 提案の見送りから半年が経過し、今後どうなるのかという心配の声が多い中、再度のプロポーザルに対する本市の考えは。

A 新たな利活用に向けてサウンディング調査を実施し、民間事業者から意見や提案を受けたいと考えている。

◆こまつドームの屋外施設の活用について

Q 出没が頻発している熊の対策の取組について。

A AIカメラの設置やごみ管理の徹底、屋外灯の点灯時間の延長、音楽放送等の実施。

Q 天然芝広場の手入れについて。

A 昨今の夏場の異常な暑さにより一部が枯れてしまったので、その部分の補修を考えている。

Q CO2削減、経費削減の観点からドリームピッチをLED化しては。

A 市内スポーツ施設については順次LED化を行っており、ドリームピッチ屋外照明設備についても計画的に実施していきたい。

◆令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向けて

Q 広域避難者やその家族の各種申請等で負担がかからない支援はできないか。

A 罹災証明書の申請や小松市内の賃貸型応急仮設住宅（みなし仮設住宅）に入所を希望する方の各種手続は小松市でも可能。

Q 仮設住宅の建設や公費解体が進むと災害ボランティアの数も今まで以上に必要となる。県と連携して、本市から災害ボランティアバスを運行しては。

A ボランティア登録者のうち約8割が県外の人のため、現在のバスの出発場所は交通アクセスのよい金沢駅となっている。県によると、ほぼ毎日200人の派遣が必要とされており、集合場所の変更は調整が難しいとのことである。

有機給食への展開と課題について



ふかた ひろとも
深田 博智
議員

一括質問



動画でチェック

◆有機給食への展開について

Q 有機給食推進への取組状況は。

A 令和2年度から、化学肥料と農薬を規定の5割以下とした特別栽培米の蛍米を学校給食に使用しており、今年度も5か月間提供するほか、「えちゃけな」を3回給食で使用する予定。

Q グリホサート成分が含まれる除草剤を学校で使用しているのか。

A 市内の小学校・中学校・義務教育学校32校のうち16校で除草剤を使用しており、その全てがグリホサート成分が含まれるものであった。今後は、安全面に配慮した上で、グリホサート成分の含まれないもので代替できるものであれば検討したい。

Q 今後のさらなる有機給食に対する考え、意気込みは。

A 学校給食への有機農産物の導入に当たっては、何より量の安定的確保が求められるほか、価格面や調理面での利用のしやすさなど、導入に際しての課題が少なくない。

しかしながら、有機農産物については、環境負荷の問題や安全面、地産地消や食育の充実の観点からも大きなメリットがあると考え、安全性や環境負荷についても、学校給食だけでなく、各家庭でも子供たちと一緒に考えてもらいたいテーマであると考えている。

◆有機給食への課題について

Q みどりの食料システム戦略の取組状況は。

A 地産地消や食育、環境保全型農業の推進に、県内自治体の中でも先駆的に取り組んでいるとともに、長期間の提供を行っている。

Q 有機農業拡大に対する考えは。

A 遊休農地マッチング制度や特定地域づくり事業協同組合制度等を活用した農地の確保、人手の確保についても有効的に組み合わせ、新たに有機農業に取り組める環境について検討していきたい。

こどもまんなか社会の実現に向けた教育面からの推進策について



さいとう かずみ
斎藤 和美
議員

一括質問



動画でチェック

◆不登校児童生徒について

Q 割合は。

A 平成30年の調査と比較すると約2倍になっており、年々増加している。

Q 教育や体験の格差についての配慮は。

A 不登校児童生徒に対しては、教員による家庭訪問での個別学習の提供、教室に入れない子供に対しては、ステップルームなど別室での学習環境の整備、学習用端末を活用したオンライン学習の実施等、学習機会の保障を図り、教育格差の解消に努めている。体験格差については、遠足や運動会等の学校行事に出来るだけ参加できるように配慮をしている。学校以外では、教育研究センターでのふれあい教室やダイナミック、サイエンスヒルズこまつにある校外ステップルームで体験活動の充実を図っている。

◆コミュニティ・スクールの運営について

Q 現状と今後の進め方は。

A 今年度から、松東みどり学園をモデルケースとして運営する。今後は、先進地の事例の検討も含め、学校と地域の連携、協働の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進していく。

◆放課後児童クラブの充実について

Q 施設基準と地域のニーズに応じた運用状況について。

A 設置基準は満たしているが、十分な広さとは言えない部分もあり、さらにより環境づくりに努める。放課後児童クラブの需要は高まっており、引き続き保護者が子供を安心して預けることができるように努める。

◆小松市民ギャラリー「ルフレ」について

Q 解体に伴う代替施設は。

A 計画中の複合型施設未来型図書館では、現状面積の確保を想定している。開館するまでの間は、Komatsu 九のギャラリー等の利用を、料金体系も含めて利用団体にお知らせしていく。

若者、女性の働く場所の確保！
企業誘致が大前提！！



かわさき じゅんじ
川崎 順次
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市のさらなる向上発展に向けて

Q 新幹線小松駅開業後、駅周辺のにぎわいはどう変わったか。

A 駅周辺では宅地整備計画も進行しており、にぎわい創出につながるよい好循環が生まれつつある。

Q お客様の入り込み状況は。新幹線効果を一過性で終わらせないように。

A 金沢ー福井間のゴールデンウィーク期間までの新幹線利用は好調で、小松駅においても同様。

Q 小松空港の利用状況は。

A 令和5年度利用者数は、コロナ前より8割まで回復。

Q スポーツ大会誘致の取組は。

A 今後も、全国的にも類いまれな高速交通ネットワークと充実したスポーツ施設を生かし、積極的に誘致していきたい。

Q 新幹線と空港は小松市の要。東北、九州などの国内線新規路線の開拓が必要。

A 旅客機能拡充と合わせ、周辺の拠点機能を充実し、新たな人流、物流を生み出していき、路線や便数の拡大等につなげていきたい。

◆若者・女性の人口減少に歯止め

Q 結婚、出産、子育てしやすい、若い人たちが地元で働きたい社会環境を。若者、女性が働ける企業誘致が必要。

A 新幹線通学通勤に係る助成制度創設など、転出抑制・定住促進を図り、また、オフィス系企業の誘致など女性の就業環境向上を図っている。

◆小松空港インターの整備

Q 安宅新産業団地進出企業が決定、エアターミナルビル建設も一歩前進、民営民設アリーナ構想があり、空港インターが必要。やるのは今。

A 小松空港中期ビジョン策定検討委員会等で議論しながら、必要性を検討していきたい。

◆小学校の少人数30人学級

Q 教師が子供と向かい合うことが大事。

A 国の検証結果などを踏まえて検討していく。

◆学校体育館に空調設備が必要

Q 避難所、授業、部活動に使用。一日も早く整備を。

A 子供たちが快適な環境の中で充実した学校生活が送れるよう検討していきたい。

新産業団地について



はいだ まさのり
灰田 昌典
議員

一括質問



動画でチェック

◆新産業団地計画について

Q 安宅新産業団地が6社により完売したことは大変喜ばしいことである。次の計画として向本折地区、串地区100ヘクタールであるが、この地区に決まった要因は。

A 交通アクセスやインフラ整備状況などを総合的に評価し、整備コストなどを踏まえ決定した。

Q 向本折地区は5年計画とあるが。

A 事業完成まではおおむね5年を予定しているが、2年から3年後をめどにカタログ販売の形で公募を行っていききたい。

Q 今後の企業誘致のビジョンは。

A 地場企業の事業拡大支援に加え、市外県外から新しい産業を誘致し、「産業創生都市こまつ」のレベルアップを図りたい。

◆内水の被害軽減対策、災害復旧について

Q 石橋川の導水路と遊水地の計画の効果、工事のスケジュールは。

A 排水区全体の浸水被害軽減につながるものであり、導水路工事は令和6年度末の完成を目指す。遊水地も今後整備を進める。

Q 九龍橋川沿線の内水対策、災害復旧工事の復旧手順、工事内容は。

A 内水対策としては9月に排水ポンプ増強工事と水路拡幅工事が完成予定。復旧工事は、背面土砂の流出を防ぐ工事を実施済み。排水路は来年6月完成予定であり、その後市道土居原下牧線の道路・下水道工事に着手し、全体としては令和8年3月完成予定。

◆小松市民センター駐車場の課題について

Q 駐車場の利用制限の状況は。

A ホールとその他の施設が同時予約の場合は調整を行っている。

Q 多目的広場とテニスコートの利用状況。ぜひ駐車場の拡張を。

A 市内の他の施設と比較すると利用が少なく、差が生じているため、テニスコートを駐車場として整備する方向で検討。

道路・交通の整備網と「にぎわい」づくり



なかにし はじめ
中西 肇
議員

一括質問



動画でチェック

◆地域公共交通計画について

Q 小松地域交通プラン改定の時期を迎え、将来の地域公共交通の在り方について見解を伺う。

A 公共交通の維持が困難な状況にあり、新しい地域公共交通体系構築が急務である。

誰もが行きたい時に行きたい所に行ける社会の実現に向けて、新技術、新サービスを活用し、地域交通の省人化、効率化を図り、持続可能な交通体系の再構築を目指す。

◆生活道路の安全対策について

Q 市道のクラックが拡大し亀裂が目立つ、区画線が消えて車線が分かりにくい等、適切な対応が必要である。今後の対応を問う。

A 市道の舗装は、路面性状調査に基づき、舗装補修等を実施している。今年度改めて調査を行い、計画的な補修管理に努める。区画線は、交通安全施設の一つであり、幹

線道路や通学路などの重要度の高い箇所・状態の悪い箇所から引き直しを行っている。

Q 市道上八里白江線消雪施設の国府地区への延伸について、今後の対応は如何に。

A 国府中学校前の区間は、用水路の水を利用した消雪施設の整備に向けた調査検討を今年度実施する予定である。

◆「にぎわい」づくりについて

Q 「花のまちづくり」及び「日本こども歌舞伎まつり」について、今後の方向性は。

A 花のまちづくり全国大会を契機に、今後の「花のまちづくり」の継続・在り方について検討が必要である。関係者と協議を重ね、新たな方向性を見いだしたい。

「歌舞伎のまち こまつ」は、小松市にとって非常に重要なテーマであり、「日本こども歌舞伎まつり」だけではなく、「歌舞伎のまち こまつ」に係わる全体について、今後の在り方を関係者と協議を重ね、検討したい。

災害級の暑さに対する備え



うめだ としかず
梅田 利和
議員

一括質問



動画でチェック

◆指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）について

Q クールシェアスポットからの移行について。

A 本年4月1日からの気候変動適応法の改正により、市民の熱中症予防のための避難場所として、指定暑熱避難施設を市町村が指定できるとされたことから、今年度よりこれまで石川県が主体であったクールシェアスポットから、市が主体となる指定暑熱避難施設の指定制度へと移行したものの。

市では、暑さに慣れていない時期に発生しやすい熱中症を予防する対策として、公共施設及び民間施設の協力を得て指定暑熱避難施設を早期に指定し、6月17日から10月23日までの間で運用を開始した。

Q 関係機関との情報共有と公共施設、民間施設の活用について。

A 熱中症特別警戒情報の発表時や警戒情報に相当する33以上が予想される場合

に、学校、保育所、福祉施設などの関係機関や指定暑熱避難施設に対して情報を共有するとともに、ホームページやSNS、防災行政無線等で市民に注意喚起を行うことにしている。また、市では独自に施設の営業日、営業時間での開設をお願いしており、施設が指定する場所での利用を可能としている。

指定暑熱避難施設は、現時点で図書館や市立公民館などの公共施設で21施設、民間施設ではショッピングモールやスーパーマーケットなどで16施設の計37施設で運用を開始している。今後、新たな指定暑熱避難施設については継続的に募集を行うことで、更なる指定の拡大を図っていきたい。

Q 身近な場所に指定暑熱避難施設がない場合、公民館などを活用する方法もあると思うが。

A 地域のニーズに応じて自主的な運用をいただければありがたいと考える。